

各推進地区の取組について

義務教育課

1 平成25年度推進地区指定について

宮城県教育委員会では、本県の重点的取組の一つである「志教育」の推進・普及に係り、中学校区を単位とする7地区を推進地区として指定しました。

※推進地区

川崎町地区、亘理町地区、加美地区、栗原地区、東松島地区、登米地区、南三陸地区

2 推進連絡協議会について

各推進地区では、推進連絡協議会を立ち上げ、志教育の推進を図りました。

※推進連絡協議会の構成員：事務局は当該教育事務所（地域事務所）に設置

当該市町村教育委員会担当者、推進校の担当教員、当該教育事務所（地域事務所）指導主事、高校教育課指導主事（必要に応じて）

3 推進地区の取組内容について

推進地区では推進連絡協議会を中心に、以下のような取組を実践しています。

- ・推進地区内の実践目標の設定と実施方針の決定
- ・小・中・高等学校及び特別支援学校の連携の在り方の検討
- ・各校種の取組についての情報交換及び全体計画の調整
- ・家庭及び地域と連携した事業展開の在り方についての検討及び実施
- ・事例発表会の企画及び実施
- ・講演会及びフォーラム等の企画並びに実施（事例発表会と併せて開催）
- ・実践事例報告書及び実施報告書の作成
- ・その他志教育の推進・普及のために必要な取組

4 各推進地区の事例発表会について

推進地区名	中学校区	開催日	開催場所
川崎町地区	川崎中学校区 富岡中学校区	平成26年2月10日	川崎町山村開発センター
亘理町地区	亘理中学校区 荒浜中学校区 吉田中学校区 大隈中学校区	平成26年1月16日	亘理町立亘理中学校
加美地区	小野田中学校区	平成25年11月21日	加美町やくらい文化センター
栗原地区	築館中学校区	平成25年12月12日	栗原文化会館
東松島地区	矢本第一中学校区	平成25年11月27日	東松島市立矢本第一中学校
登米地区	登米中学校区	平成26年2月14日	登米市立登米小学校
南三陸地区	志津川中学校区	平成26年1月22日	南三陸町立志津川中学校

★ 各地区では、平成26年度以降も特性に応じた取組を推進していく予定です。

川崎町地区の取組

【推進校】

川崎町立こども園 川崎町立富岡幼稚園 川崎町立川崎小学校 川崎町立川崎第二小学校
川崎町立富岡小学校 川崎町立前川小学校 川崎町立川崎中学校 川崎町立富岡中学校
宮城県柴田農林高等学校川崎校

【目標】 川崎町志 18年教育～学びの架け橋レインボープラン～

町内の各園・小・中・高等学校の各校種が家庭及び地域と連携して、人や社会と関わる中で社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えながら、現在や将来においてよりよい生き方を主体的に求めていく子どもを育成する。

【取組の概要】

1 幼・小・中・高18年間を見据え、義務教育の枠を超える長い視点で、川崎町が誇る園児・児童・生徒の健全な育成を図る。

2 18年間に渡る子育てプログラムを作成し、発達段階に即した継続的な指導を行う。川崎独自に作成した「かわさきっ子虹の架け橋子育てプログラム」を全戸に配布する。

3 「小1プロブレム」は「小1エンブレム」に、「中1ギャップ」は「中1ジャンプ」の言葉に置き換えられるような川崎らしい各校種間の接続を図る。



未来のまちづくり
フォーラム in かわさき

高校生と園児の栽培
活動交流会

4 18年間を通した生き方教育という大きなくくりの中で、現在実施している川崎町の施策を融合し、社会的に自立した深い郷土愛に満ちた子どもの育成を図る「川崎町の教育総合プラン」として、平成26年度以降も継続する。

『首長部局・教育委員会・産業界との連携』
① 町長講話 ② サン・マリノ国大使講話
③ テレビキャスター及びピアノ弾き語り
④ 先人に学ぶ ⑤ 教育フォーラムの開催
⑤ 支倉常長まつり・JA 関連事業への参加



セカンドスクール
町内四つの小学五年生が参
加する四泊五日の野外活動

【成果】

- 1 町全体で活動する場面が増えたことで、達成感や自己有用感を感じる子どもが増え、自分の目標や将来を意識して学校生活に取り組む傾向が見られた。
- 2 0歳～18歳までの長いスパンで子育てに取り組む視点は、学校、家庭、地域が一体となってじっくりとあせらずに子育てに取り組む指標として具体的な提案ができた。
- 3 幼稚園から高校までの教職員が一堂に会して協議をしたり、情報を交換したりすることは、連続的な視野で子どもたちを見守ることができ教職員サイドから見ても大変効果的であった。

【課題】

- 1 18年間を通した生き方教育を継続できるように、今回提示した「かわさきっ子虹の架け橋子育てプログラム」を家庭、地域において実践するなど、積極的な活用が必要である。
- 2 企業との連携を模索することが、児童、生徒の夢や志を深める方策となると考え、地場産品であるソバやコンニャク、ギンナンなどの効果的な活用や釜房ダムを中心エリアとしての観光立案など、再度、子どもの目線での活動を考える必要がある。

亶理町地区の取組

【推進校】 亶理町立亶理小学校・亶理町立荒浜小学校・亶理町立吉田小学校・亶理町立長瀬小学校
亶理町立逢隈小学校・亶理町立高屋小学校・亶理町立亶理中学校・亶理町立荒浜中学校
亶理町立吉田中学校・亶理町立逢隈中学校・宮城県亶理高等学校

【テーマ】 「育てよう 未来を築く 志」

【取組の概要】

① 小・中連携と地域連携を生かした児童・生徒活動（逢隈小・逢隈中・荒浜小・荒浜中）



- ◆ 荒浜小学校「花いっぱい運動」縦割り班活動で、地区住民・施設にも花を届ける活動
- ◆ 逢隈小学校「教えてセンパイ！」逢隈中2年生による小学校訪問6年児童に職業体験を伝える
- ◆ 荒浜中学校「街道を歩く会」29回目となる伝統を誇る35kmを全校で踏破。友人や先生方、親との「かかわり」の大切さを再確認
- ◆ 逢隈中学校「ともにつくり夏祭り」小中児童会・生徒会の合同会議を通じ、地域の夏祭りの活性化に取り組む

② 授業と学級・学年活動を軸にした「志」を高める取組（亶理小・亶理中・高屋小）



- ◆ 亶理小学校「志教育カリキュラム」の作成 日常授業で「志教育」の推進 「志通信」による保護者への啓発活動
- ◆ 高屋小学校「夢授業」偉人や有名人のエピソードにふれ、夢や目標を持ち続けることの大切さを感じさせる取組
- ◆ 亶理中学校「レコーディングサポート」学年毎日記形式で継続的な生徒の取組を支援する取組

③ 地域・学校の特色を生かした独自性のある取組（吉田小・吉田中・長瀬小・亶理高）



- ◆ 吉田中学校「職場体験学習」と「キャリアセミナー」など、地域の人々とのふれあいや職業人の講話から自己の生き方についての考えを深める取組
- ◆ 吉田小学校「農業体験」県下有数のりんご栽培「アップルランド」での授粉作業などの取組
- ◆ 長瀬小学校「みやぎの先人集」を生かした道徳授業 「漢字検定」へのチャレンジを積極的に支援する取組
- ◆ 亶理高校「HEART WARM キャンペーン」携帯マナーや春のフラワー作戦など、豊かで心温まるCMを作成し、マナーやモラルの向上を目指し、継続的に取り組んだ。

さらに、町内全ての小・中・高校が連携し、月例の「マナーアップキャンペーン」を展開。亶理駅前など街頭におけるあいさつ運動やクリーンアップ活動など、「あったか ふれあい わたり町」を合い言葉に、町全体への啓発を目指す活動にも取り組んだ。また、各校のトップリーダーが結集し、「わたりこどもサミット宣言」を行い、未来のまちづくりに積極的に関わることを確認した。

【成果】

- ① 自主的な児童・生徒活動の活性化
災害支援ボランティア活動や、除雪活動など、自ら進んで他者のために働こうとする活動気運が高まり、地域行事等との連携も含め、活動が活性化した。
- ② 継続的に努力する児童・生徒の増加
資格取得や学習成績の向上など自分なりの目標を設定し、継続的に努力する傾向が強まった。
- ③ 学校間・学校～地域間の連携強化
従来十分でなかった小・中・高の交流活動が生まれ、活動方法や活動場面の共有が進み、モデルとなる上級学校生徒の自覚が高まっている。また、各校と地域の結びつきが改めて強まった。

【課題】

- ① 「まちづくり」への建設的参加
子どもたちなりの具体的なまちづくりへのさらなる提言、シンポジウムの参加などが望まれる。
- ② さらなる連携・連続・継続
各校が志教育の実践を継続し、さらに創造性を付加し、連携していくことが必要である。

加美地区：小野田中学校区の取組

【推進校】

加美町立東小野田小学校，加美町立西小野田小学校，加美町立鹿原小学校，加美町立小野田中学校
宮城県中新田高等学校

【目 標】

小・中・高等学校の連携のよりよい在り方を志教育の視点から探り，交流活動を改善・活性化させることによって本学区の志教育を推進し，児童・生徒が社会人としてよりよく生きる力を高める。

【取組の概要】

(1) 1学期

- ① 3小学校「3年合同薬菜登山」（6月3日，薬菜山）
- ② 3小学校「5年花山野外活動事前交流会」（6月4日，東小野田小）
 - ・3小学校の5年生が野外活動を充実させるために事前に児童一人一人の交流の機会を増やす目的で実施
- ③ 小野田中学校区「第1回小・中・高交流会」（授業参観・研修会：6月5日，小野田中）
 - ・「よりよい生き方を主体的に探求させる志教育の推進」
講師：栗原市立若柳中学校 教諭 加藤純一 先生
- ④ 3小学校「5年花山野外活動」（6月10日～12日，国立花山青少年自然の家）
 - ・3小学校の5年生が一部のプログラム（キャンプファイヤー，登山等）を合同で実施

(2) 2学期

- ① 志教育リーフレット全戸配布(小野田中学校区：11月20日)
- ② 小野田中学校区「事例発表会（第2回小・中・高交流会）」
(11月21日：加美町やくらい文化センター)
 - 小学校の実践「3校合同花山野外活動を通して」，「独逸学園交流会を通して」，「わくわく農園活動を通して」
 - 中学校の実践「地域に根ざした職場体験を通して」
 - 高等学校の実践「職場体験活動を通して」
- ③ 小野田中学校区「小・中英語活動交流会」（12月18日，小野田中）

5年花山野外活動



(3) その他

- ① 小・中・高等学校の体験学習，職場体験等の「人材リスト」の作成
- ② 「志教育年間交流活動表」の作成
- ③ 小野田中学校区連絡協議会及び担当者会議等の開催

事例発表会



【成 果】

- (1) 自信をもって話すきっかけをつくる交流活動
- (2) 意義や目的を明確にする交流活動の見直し
- (3) 交流活動を一層充実させる教職員の「顔が見える連携」

【課 題】

- (1) 志教育指導計画の共有化による発達の段階に応じた指導
- (2) 積極的な情報発信と地域の人材活用（含む教材作成等）
- (3) 小・中・高の連携を生かした教科・道徳の推進

栗原地区：築館中学校区の取組

【推進校】	宮城県築館高等学校（0228-22-3126）	栗原市立築館中学校（0228-22-3146）
	栗原市立築館小学校（0228-22-1131）	栗原市立玉沢小学校（0228-22-2433）
	栗原市立宮野小学校（0228-22-3119）	栗原市立富野小学校（0228-22-2442）

【目 標】

人とかかわりを大切にしながら、自立する力や望ましい社会性や勤労観を育み、将来への「夢」と「志」をもった児童・生徒の育成をねらいとして以下のことに取り組む。

- (1) 幼・小・中・高の連携を重視し、校種ごと「人とかかわる」、「よりよい生き方を求める」、「社会での役割をはたす」視点による、教科、領域等の系統性ある指導計画の作成と実践
- (2) 校種間活動計画の作成と実践
- (3) 家庭及び地域との連携を図る活動計画の作成と実践



【小高連携】高校陸上部による指導

【取組の概要】

- (1) 推進地区連絡協議会の設置及び運営
- (2) 家庭及び地域、幼・小・中・高等学校との連携
- (3) 「みやぎの先人集」を活用した授業
- (4) 講演会等の実施（教員対象、児童・生徒対象）
- (5) 小・中・高交流発表会の実施
- (6) 事例報告書の作成
- (7) 各校種の校内推進委員会の設置及び運営



【小中高交流発表会】小中合同発表

【成 果】

本事業への取組をとおして、特に「連携の充実」という視点から「校種間連携」「地域との連携」を進めてきた。

右記の取組をとおして、小・中・高の教員が連携し、「志教育」という共通の視点で子どもたちの成長について議論し、それぞれの立場で工夫・改善を加えながら本事業に取り組んできたことは大きな成果であると考えている。

児童生徒にとっては、小・中・高・地域が連携した活動に取り組ませることで、ふるさと築館の良さを再発見し、人としての生き方を考え、将来のビジョンを持つことにつながった。

【課 題】

それぞれの取組を行う際に、時間的制約がある中、継続して取り組んでいくには工夫が必要であること。学校間で内容について吟味する時間が限られること。生徒の変容が分かりにくいいため、個に適した指導が容易ではないこと。

以上の課題を解決するために、来年度は、これまで以上に小・中・高が交流を密にし、一層の議論を重ねていくようにしたい。

連携	内容
小・中	中学校の先輩に学ぶ
	築中1日体験入学
中・高	高校生に学ぶ
	築館高校ガイダンス
小・高	高校生ティーチャーによるサマースクール
	すごいな高校生！ 「陸上部員の競技指導、吹奏楽部との交流、高校生による読み聞かせ」
地域	神楽「鶏舞」
	人の生き方を見つめて・白鳥省吾の生涯
	未来を築く（気付く）職場体験学習 ボランティア部の実践
小・中・高	小中高交流・発表会の実施
	講演会

東松島地区：矢本第一中学校区の取組

【推進校】東松島市立矢本第一中学校・同矢本東小学校・同大塩小学校・同矢本西小学校
宮城県東松島高等学校・宮城県石巻西高等学校

【目標】

児童・生徒の発達段階に応じて、「豊かな情操や人間性」「理想の実現に向かって生きる力」「志をもって自立していくために必要な能力」「社会に寄与する態度」等を育成する。

【取組の概要】

①確かな学力部会

- ・教員相互の授業参観
- ・小学校・中学校・高校の学校間相互授業交流（出前授業・TT）
- ・児童生徒の交流（高校生による小学生への読み聞かせや、中学生の小学校への職場訪問）

②豊かな心部会

- ・『心あったかイートころ運動』の実践（「あいさつ」「清掃」「ゴミ拾い」）
- ・夢のあるまちづくり協議会（将来の東松島市像を市長や議会議員に提案し、話し合いを行う）
- ・立志式（中学生による将来の夢や今後の生き方等について発表）

③健康な体部会

- ・体力・運動能力調査の実施（調査結果に基づき、校種別の改善策の提案）
- ・生活習慣状況調査の実施（起床や就寝時間、朝食の摂取についての調査結果に基づく改善策の提案）
- ・体力向上に向けた実践（調査結果を踏まえた中学校教諭の小学校での出前授業や適切な運動の提案）

④生徒指導部会

- ・「心の朝錬」の展開（中学生が部活動単位に月2回あいさつ運動やごみ拾いなど奉仕活動を実施）
- ・生徒指導連絡協議会の開催（小中合同での児童生徒に関する情報交換と中学校の授業参観）
- ・防災教育の推進（長野県や兵庫県等の学校との交流を通しての防災意識の高まり）



出前授業（相互授業交流）



心あったかイートころ運動



心の朝錬

【成果】

- ◇ 他者とのかかわりを大切にしようとする児童・生徒の姿が、多くみられるようになった。
- ◇ 相手意識を持ってあいさつや感謝の気持ちを言葉や行動で表したりできるようになった。
- ◇ 学校生活において自分の役割を自覚し、責任を果たそうとする姿がより多くみられるようになった。
- ◇ 異校種間の交流により、自己有用感や進路への関心を高め、互いの新たな発見や成長につながった。
- ◇ 異校種間の連携により、児童生徒の実態把握が進み、教育活動の特性などへの理解が深まった。

【課題】

- ▲ 学校間の相互交流事業の成果と課題を踏まえ、連携を継続していくこと。
- ▲ 各取組で育った心を、継続的な指導及び家庭との連携により、一層確かなものにしていくこと。
- ▲ 志教育の3つの視点を各教科でどのように生かしていくかについて更に吟味すること。

登米地区：登米中学校区の取組

【推進校】登米市立登米小学校 登米市立登米中学校 宮城県登米高等学校

【目標】

- (1) 小中高の連携を図り、各発達段階における望ましい学びの主体性や勤労観・職業観の育成を図る。
- (2) 各校種間の連携による、「志教育」の円滑な推進を図る。
- (3) 児童生徒の健全育成のための家庭及び地域との連携の在り方を探る。

【取組の概要】

- (1) 志教育の3つの視点「かかわる」「もとめる」「はたす」を押さえた教育活動を展開する。
- (2) 小・中・高等学校及び地域・保護者との連携を深めながら実践する。
- (3) 地域の特色を生かした交流活動・連携活動を実践する。
- (4) 実践したことの広報に努める。以下は、実践事例発表会の様子である。



児童生徒は、小さい頃より、地域住民の一人として、伝統の継承に携わっています。



郷土の偉人、渡邊政人氏の生き方から、郷土愛・希望・勇気について思いを深めることができました。

【地域の教育力：小中高，教員，地域の方々】

【道徳：地域の先人から学ぶ】



中学生の進路実現のための悩みに対して、高校生からアドバイスを受け、具体的な改善策を考えました。



小中学生が、植林活動を通して感じたことを基に、登米町の環境保全のために、具体的な取組を提案しました。

【キャリア学習：中高の交流】

【環境学習：小中の交流】

【成果】

- (1) 小中高生の交流活動
児童生徒のかかわりを通して、一般的に上学年が自己有用感を、下学年が先輩への憧れを抱くことができ志教育に有効であった。
- (2) 小中高での情報交換
志教育推進委員会等の開催により、情報交換や授業、学校の様子を直接見る機会が増え、教師が学習の系統性や連続性について理解を深めることができた。
- (3) 実践事例発表会の開催
志教育推進地区として多くの参加者の下、地域の先人を題材にした道徳や小中及び中高が交流した環境学習、キャリア学習の様子並びにこれまでの取組を広く発信できた。

【課題】

- (1) 交流の促進
交流活動は限られた学年の児童生徒の交流となった。様々な制約はあるが、交流内容や場面及び対象を検討していきたい。
- (2) 保護者，地域の方々への情報発信及び連携
志教育の活動についてさらなる情報提供を行い、家庭でも協力していただく。地域行事への参加や家庭内での手伝い等を通して勤労観や社会性を育成していくことが必要である。

南三陸地区：志津川中学校区の取組

【推進校】 南三陸町立志津川小学校，同入谷小学校，同志津川中学校，宮城県志津川高等学校

【目標】 「手を取りあい未来へ」

小・中・高等学校が連携し，地域とのかかわりを通して，夢や志をもち，震災復興と将来の南三陸町を支える児童生徒を育成する。

【取組の概要】

- 1 12年間の志教育に系統性をもたせる取組
 - (1) 「自分の将来(夢)を考える場(シート)」として「夢実現シート」を作成・活用している。小学校4年生ごろから少しずつ「夢」について考えさせ，中学校・高校と成長する中で，自分を見つめさせながら将来を考えさせるものである。このシートは累積して，志津川中学校，志津川高校に引き継いでいく。
 - (2) 小・中学校間では，小学校の学級活動に中学生がゲストステューデントとしてかかわったり，中学校の授業や部活動の見学会を行ったりしている。
 - (3) 志津川中学校と志津川高校は「地域連携型中高一貫教育」を推進しており，部活動で交流を図ったり，乗り入れ授業(英・数)を行ったりしている。
- 2 将来の南三陸町を支える人材育成を目指す取組
 - (1) 打ち囃子などの伝統文化や養蚕の歴史などを学び，地域への理解を深めている。
 - (2) 職場体験学習やインターンシップなど，地域の中で地域と共に成長できる取組を実施している。
 - (3) 震災直後の4月から毎月開催されている「福興市」に，今年度も中学校3年生全員が参加した。復興に向けて頑張る大人たちの姿を見て「いずれは自分たちも」という思いを抱いた生徒も少なくない。

【成果】

- 1 小・中・高等学校でそれぞれが実践してきた志教育の意義を再確認することにより，小・中・高等学校の12年間の志教育に系統性をもたせることができた。
- 2 地域を愛し，震災からの復興に取り組む人々に接したことにより，児童生徒は「自分たちはたくさんの人たちに支えられている」「この町の将来を担うのは自分たちだ」という自覚と「町の復興と活性化に寄与したい」という志をもつきっかけになった。
- 3 児童生徒，保護者，地域の方々が参加した実践発表会を通して，児童生徒は互いの取組や大人たちの思いを知り，将来の夢や志について考えることができた。

【課題】

- 1 小・中の連携，中・高の連携は多く実践できたが，小・高の連携についてはまだ取り組む余地がある。
- 2 震災からの復興で変わりつつある南三陸町の姿と地域や保護者の思いを，児童生徒の夢や志につなげる取組を今後さらに検討する必要がある。



中学校生活について質問する小6の児童



日常的に部活動で交流を図る中・高校生



自分たちで育てた蚕の繭を使って繭細工



25年度も11月の「福興市」に中3が参加